

世界遺産姫路城マラソン
新型コロナウイルス感染症
予防対策マニュアル

世界遺産姫路城マラソン実行委員会

2022年10月改訂

基本的事項

感染症の基本的対策

感染症対策の基本は、接触感染・飛沫感染を抑えることである。

3密（密閉・密集・密接）の回避・マスクの着用・手指の消毒・検温の実施・体調管理は上記の対策において特に重要である。

本マニュアルでは、大会開催時の各シーンごとにこれらを実施する方法を具体化した。以下は、全ての大会関係者が遵守すべき感染防止の基本原則である。

【3密の回避】

密閉防止のため、更衣室や控室等においては、窓を開放するなどの換気対策を実施し、窓の開放等の対応が難しい場合は、必要換気量の基準を確保できる範囲で、在室人数の制限を行う。

密集防止のため、大会当日における沿道応援等の自粛を呼び掛ける。また、マラソン祭におけるステージイベントは行わない。

密接防止のため、適切なディスタンスの確保を呼び掛ける。

【①飛沫感染対策】

飛沫感染防止の基本的な対策として、原則として全ての大会関係者にマスク着用を義務付ける。ただし、ランナーにおいては、レース中（スタート後～フィニッシュまで）の着用は任意とする。**※フィニッシュ後はマスクを配布する。**

対面対応となる際は飛沫防止パーテーションを設置する等の飛沫防止対策を行う。

フルマラソンのスタートはウェーブスタートを導入し、ランナー同士が適切なディスタンスをとって整列できるような広さを確保する。

受付会場など密になりやすい場所では、目印の設置、スタッフの配置により適切なディスタンスを確保するよう誘導・呼びかけを行う。

【②エアロゾル感染対策】

密閉防止のため、更衣室や控室等においては、窓を開放するなどの換気対策を実施し、窓の開放等の対応が難しい場合は、必要換気量の基準を確保できる範囲で、在室人数の制限を行う。

【③接触感染対策】

接触感染防止の基本的な対策として、各会場やエリアの出入口、トイレ等に消毒液を設置し、手指の消毒を徹底する。

【④飲食時の感染対策】

マラソン祭、ランナーサービスにおける飲食物の提供は**個包装の物のみ**とする。また、飲食中はマスク無しでの会話自粛を呼びかける。

基本的事項

【⑤イベント前の感染対策】

全ての大会関係者に、大会前1週間の体調について、**体調管理チェックシート**の提出を義務付け、チェック項目に該当する方には大会への参加をお断りする。
(チェック項目)・発熱、咳、咽頭痛などの症状の有無

【⑥感染拡大対策】

大会参加申込み時に全てのランナーの連絡先を把握する。
全てのランナーに、検温を実施し**37.5°C以上の発熱**のある方は大会への参加をお断りする。特にランナーにおいては、検温済みであることが一目でわかるようなリストバンド等を配布し身に付けてもらう。

【⑦出演者やスタッフの感染対策】

スタッフは、業務内容に応じて感染症対備品（携帯アルコール消毒液、使い捨て手袋、フェイスシールド、防護服など）を装備する。
大会当日における沿道応援の自粛や私的な飲食物の提供の禁止を呼びかける。また、マラソン祭におけるステージイベントは行わない。

◆ランナーおよびスタッフの大会参加の可否基準

<p>感染者 及び 感染疑い者</p>	<p>大会開催日の3週間前の時点もしくはそれ以降に新型コロナウイルスに感染した場合又は感染疑い症状を発症した場合は、大会に参加できない。</p> <p>ただし、次のⅠ～Ⅲの場合において、①～④のうちいずれかの条件を満たす場合は参加を認める。</p> <p>※いずれの場合も、体調に不安がある場合を除く。</p> <p><u>Ⅰ. 頭痛・咽頭痛等の症状がある者の場合（感染者）</u></p> <p>①発症日から7日間が経過し、かつ症状軽快後24時間が経過した場合</p> <p><u>Ⅱ. 無症状の者の場合（感染者）</u></p> <p>②検体採取日から7日間経過した場合 ③検体採取日から5日間経過した後に核酸増幅法等の検査を行い、陰性が確認され、その検査の検体を採取した24時間以後に再度検体採取を行い、陰性が確認された場合</p> <p>※発症日：患者が症状を呈し始めた日 ※症状軽快：解熱剤を使用せずに解熱し、かつ、呼吸器症状が改善傾向にあること ※核酸増幅法等：核酸増幅法又は抗原定量検査のこと</p> <p><u>Ⅲ. 検査を受けていない者の場合（感染疑い者）</u></p> <p>④感染疑い症状の発症後、少なくとも7日が経過し、かつ薬剤を使用していない状態で、解熱後および症状消失後に少なくとも24時間が経過した場合</p>
<p>濃厚接触者</p>	<p>・保健所から濃厚接触者として認められ、5日間の健康状態観察期間が経過するまでの間は大会に参加できない。</p> <p>・上記期間経過後であっても、感染疑い症状が認められる場合は大会に参加できない。</p> <p>※ただし、2日目及び3日目の抗原定性検査キット（薬事承認されたもの）を用いた検査で陰性を確認した場合は、3日目から参加を認める。</p>

※日本陸連「ロードレース再開についてのガイダンス」による基準を参考
厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の基本対処方針」
(令和4年9月8日変更)

※感染疑い症状とは

- ・息苦しさ、強い倦怠感、高熱などの強い症状のいずれかがある場合
- ・重症化リスクが高い方で比較的軽い風邪の症状がある場合
- ・上記以外で比較的軽い風邪の症状が続く場合

※国や兵庫県のイベント開催方針の変更や日本陸上競技連盟のガイドライン等の改訂内容に応じて随時対策を検討するため、ワクチン接種歴や陰性証明の提出を求めるなど追加の感染予防対策を行う場合があります。

◆スタッフの感染症予防対策

スタッフが装備する感染症予防対策備品は以下のとおり

共通の装備品	①マスク（不織布）
各業務に応じて追加で配布する装備品	②携帯用アルコール消毒液 ③使い捨て手袋 ④フェイスシールド ⑤防護服（医療用ガウン）

（例）

- ・給水・給食スタッフは使い捨て手袋を着用
- ・救護スタッフや感染疑い症状者を搬送する車両スタッフは防護服を着用

◆体調不良等への対応

（1）体調管理シート提出時

- ・体調管理シートのチェック項目に該当する方がいた場合、各会場の隔離スペースへ案内し、医療従事者による症状の聞き取りや検温を実施する。
- ・症状の聞き取りおよび検温の結果、問題なしと判断されれば大会参加可能。問題あり（感染疑い症状）と判断されれば大会参加不可

（2）スタート前の検温時

- ・スタート前の検温で37.5℃以上の発熱者がいた場合、各会場の隔離スペースへ案内し、医療従事者による症状の聞き取りや再検温を実施する。
- ・症状の聞き取りおよび再検温の結果、問題なしと判断されれば大会参加可能。問題あり（感染疑い症状）と判断されれば大会参加不可

（3）救護所対応時

- ・発熱や息苦しさ等の症状がある場合は、別途設置する発熱者等対応テントで対応。
- ・医療従事者による症状の聞き取りおよび検温の結果、感染疑い者と判断されれば、隔離対応を継続し、専用車両により搬送する。感染疑い者でないと判断されれば、通常対応に復帰

◆感染疑い症状者への対応

- ・大会への参加を中止し、帰宅を促す。
- ・帰宅後も症状が続くようであれば、かかりつけ医や居住地管轄の保健所へ相談するよう案内する。
- ・大会参加者専用を受診や相談を受け付ける医療機関は設置しない。
- ・重篤な症状の方については、救急搬送で対応する。
- ・感染疑い症状者を車両等で搬送する場合は、通常の搬送車両とは別の専用車両を使用する。
- ・感染疑い症状者専用の更衣スペースを用意する。
(少人数が利用するパーテーション等で仕切ったスペース。使用の都度消毒を行う。)

◆ランナー検温の考え方

検温済みのランナーにはリストバンド等を配布し、身に付けてもらう事で検温済みの方とまだの方を一目で判別できるようにする。

【大会当日】

(マラソン)

- ・更衣および手荷物預かりエリアで検温を実施する。
- ・ただし、ランナー全員が更衣および手荷物預かりエリアを通過するわけではない為、スタートブロック入場時にリストバンドの有無を確認し、リストバンドが無い方はスタートブロック付近に別途設置する検温スペースへ案内し、検温を実施する。

(ファンラン)

- ・城見台公園のA Dエリアで検温を実施する。

【大会前日】

(ランナー受付)

- ・ランナー受付への動線上で実施する。

分野ごとの対策

(1) 大会期間中の対策 (全てのシーンでマスク着用を義務付ける)

◆ランナー受付会場 (大会前日)

- ・ 入場時に手指の消毒と検温を実施し、体調管理シートを提出してもらう。
- ・ 目印の設置、スタッフの配置等により、適切なディスタンスの確保を呼び掛ける。
- ・ 受付会場への入場上限人数を設定し、適宜入場制限を行う。
- ・ 対面対応となるブースには**飛沫防止パーテーション**を設置する等の飛沫防止対策を行う。
- ・ 参加賞等の手渡しを行うスタッフはマスク・手袋を着用する。

◆更衣エリア

- ・ 入退場時に手指の消毒と検温を実施する。
- ・ 必要換気量の基準を確保できる範囲で、在室人数の制限を行い、長時間に渡って人が滞留することを防止する。
- ・ 入場上限人数を設定し、適宜入場制限を行う事で、適切なディスタンスの確保を図る。

◆手荷物預かりエリア

- ・ 入退場時に手指の消毒を実施する。
- ・ マラソンとファンランで手荷物預かりエリアを別々に設け、密集回避を図る。

◆トイレ (仮設含む)

- ・ 消毒液を設置し、トイレの使用前後に手指の消毒を行う。

分野ごとの対策

◆スタートエリア

- ・検温済リストバンドを着用している方のみスタートブロックに入場可能とする。検温がまだの方は、別途用意する検温スペースで検温を実施する。
- ・ウェーブスタートを導入し2部に分けてスタートすることで、スタート時のランナーの密集回避を図る。
- ・スタート前のランナー同士が適切なディスタンスをとって整列できるようなスタートブロックの広さを確保する。

◆フィニッシュエリア

- ・フィニッシュ後のランナーにマスクを配布し、着用してもらう。
- ・給食提供物は個包装のものに限定する。
- ・ランナーサービスは、マスクや手袋を着用して受け渡しを行う。
- ・完走証の対面発行は行わず、各自WEB上からダウンロードしてもらう。
- ・接触を伴うマッサージサービス等は実施しない。

◆コース沿道

- ・沿道応援の自粛や私的な飲食物の提供の禁止を要請する。
- ・HPや広報誌等により、自粛・禁止要請について広く周知する。

◆給水・給食エリア

- ・エリアを拡張し、テーブルレイアウトに余裕を持たせ、密集回避を図る。
- ・給食提供物は個包装のものに限定する。
- ・ボランティアによる給水コップの手渡しは行わない。
- ・給水・給食を行うスタッフは使い捨て手袋等を着用する。

分野ごとの対策

◆収容バス

- ・マスクを配布し、車内での着用と、大声での会話の自粛を呼び掛ける。
- ・乗車時に手指の消毒を行う。
- ・外気換気モードによるエアコンの使用を基本とし、必要に応じて窓を一部開放するなどの密閉対策を実施する。

◆マラソン祭

- ・マラソン祭におけるステージイベントは行わない。
- ・飲食物の提供は個包装のもののみとする。

(2) 大会期間後の対策

◆大会参加者（スタッフ含む）

- ・全ての大会参加者は大会後2週間の間も体調管理を継続し、発熱等の症状が続く場合はかかりつけ医や居住地管轄の保健所に相談し、必要に応じて医療機関を受診する。
- ・新型コロナウイルスへの感染が発覚した場合、速やかに主催者へ連絡する。

◆主催者

- ・大会主催者は大会後1か月以内に下記の事項について日本陸連に報告する。
 - ①新型コロナウイルス感染症対策マニュアル
 - ②出務した医療従事者数
 - ③大会参加者数、競技役員数
 - ④大会参加者の健康管理状況
 - ⑤感染者の発生状況

分野ごとの対策

(3) 情報発信

◆情報管理

- ・新型コロナウイルスの感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した場合、保健所と協議のうえ、情報発信の有無・方法について協議をする。
- ・公表を行う場合、公表内容を含め日本陸連に連絡する。
- ・感染者が発生したことを公表する場合は、積極的疫学調査により濃厚接触者が特定できない場合など、不特定多数の人に知らせる必要がある場合とする。
- ・プライバシー保護の観点から個人名は公表しない。